

名	古	屋	市
都	市	計	画
マ	ス	タ	ー
プ	ラ	ン	

—概要版—



“人・まち・自然がつながる交流・創造都市”

～交流でつながる創造力でつづく、安全で心地よい都市へ～



名古屋市

名古屋のまちづくりの基本方針です。



名古屋市都市計画マスタープランは、長期的な視点に立ち、将来の都市像やまちづくりの方向性を示すとともに、地域住民・企業・行政などの協働によるまちづくりをすすめるガイドラインとなる、まちづくりの基本方針です。本計画の策定は平成13年度に次ぎ2度目となります。

本編は、名古屋市公式ウェブサイトに掲載しております。



● 前提条件

名古屋市都市計画マスタープランの前提条件は、下記のとおりです。

対象区域：名古屋市全体を基本とし、周辺市町村や名古屋大都市圏の各都市との交流についても考慮します。

目標年次：概ね20年の長期的な見通しのもとに、**2020年**（平成32年）とします。

将来人口：2025年（平成37年）頃に**減少基調**に入ることを想定します。

● 特色

名古屋市都市計画マスタープランの特色は、次の3点です。

駅そばまちづくり

将来的な人口減少や高齢化、大規模災害、地球環境問題への対応を考慮した都市構造をめざし、その第一歩となる取り組みを示します

戦略的まちづくり

戦略的なまちづくりの展開に向けて、まちづくりの戦略と重点的に取り組む地域におけるまちづくりのイメージを示します

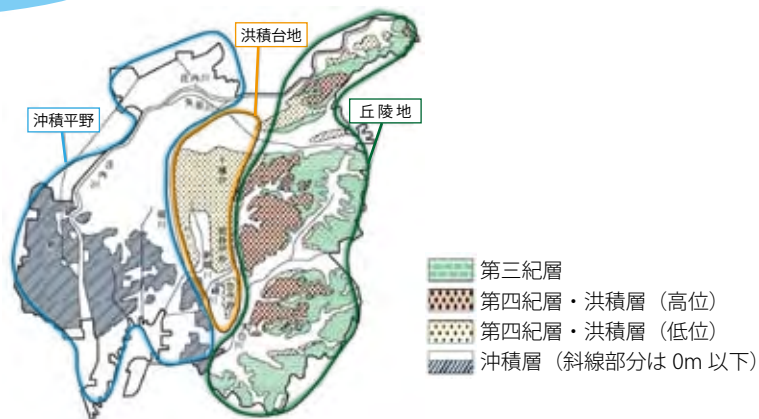
地域まちづくり

戦略的なまちづくりを支えるしくみとして、多様な主体による地域まちづくりの推進のプロセス等を示します

名古屋はこんな所

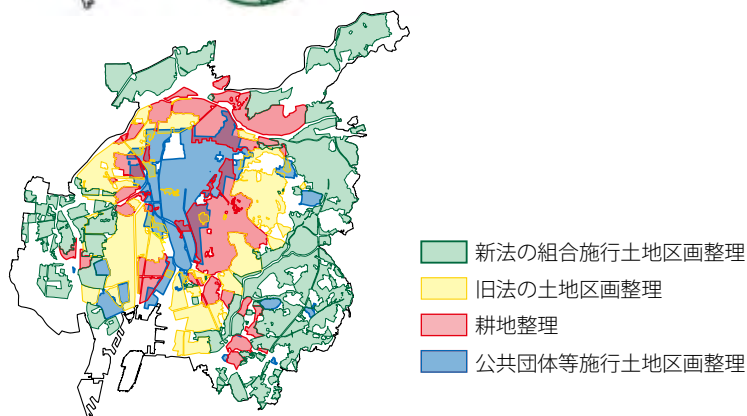
位置と地形

名古屋は、地理的に日本のほぼ中央に位置し、中部圏の中核となる都市としての役割も期待されています。地形は、東部はなだらかな丘陵地、中央部は北から南になだらかに傾斜する平坦な台地、北・西部の沖積地は肥沃な濃尾平野の一部、南部は干拓事業により開発された地域で平坦な低地となっています。



まちなりたちと特性

名古屋のまちは、尾張の国の中心地であった清須のまちを移転（清須越）することによってつくられました。また、明治時代以降の耕地整理・土地区画整理、戦後の復興土地区画整理、組合施行土地区画整理などによって、市街地の形成がすすめられてきています。



名古屋の特徴



■名古屋城

豊かな歴史文化

名古屋は、楽市・楽座など既成概念を打ち破る画期的な政策を行った信長や、天下統一を果たした秀吉を輩出し、家康によ

って築城された名古屋城は、400年を経た現在もまちのシンボルとして親しまれています。戦災を免れた本丸御殿の障壁画を始めとする、貴重な文化資産も数多く残されています。また、築城にあわせ開削された堀川は、400年もの間名古屋のまちづくりと人々の暮らしを支えてきました。

江戸時代には7代宗春をはじめ歴代の尾張藩主が文化芸術や学問の振興に取り組んだ結果、幅広い分野の文化・芸能が盛んになり「芸どころ名古屋」が培われました。



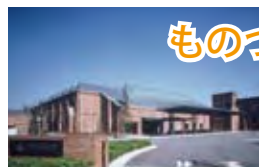
■藤前干潟

環境保全の取り組み

名古屋市は、渡り鳥の重要な飛来地である藤前干潟を保全するため、埋立処分場計画を断念し、ごみ非常事態を宣言しまし

た。そして、市民総ぐるみでごみ減量に取り組んだ結果、2009年度には1998年度に比べてごみ処理量は約6割に、埋立量は約3割にまで減りました。こうした努力によって守られた藤前干潟は、2002年にラムサール条約の登録湿地となりました。

環境に対する市民意識の向上や協働文化の浸透は、2005年に開催された愛・地球博を経て、市民の主体的な環境保全活動や2010年に開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）の取り組みへと広がりを見せています。



■産業技術記念館

ものづくり圏域の中核都市

名古屋は、江戸時代から良質な木材の集散地であったことから、建具、家具、仏壇・仏具などの生産が盛んになりました。

さらにこれらの木材加工技術を基礎にして、時計、鉄道車両、合板、楽器などの近代工業へと発展しました。

また、瀬戸や常滑などの陶磁器産地に近いことから近代窯業が発展するなど、ものづくりの歴史の中で育まれた産業技術の蓄積と集積はさまざまな技術革新を生み出す源泉となりました。

こうして、名古屋を中心とする圏域は、自動車、航空機、精密機器、工作機械、ファインセラミックスなどの分野において、世界的なレベルの産業技術の中核圏域となっています。



■久屋大通公園周辺

住みやすい大都市

名古屋は、東京、大阪に次ぐ大規模な経済圏の中核都市ですが、東京、大阪と比べて人口密度が高くなく、計画的なまちづ

くりにより広い道路や公園が確保され、空間的なゆとりを備えています。また、大都市でありながら通勤時間が比較的短いなど、時間的にもゆとりのある都市であるといえます。日本初の地下鉄環状運転が実現されるなど公共交通ネットワークが充実しているほか、木曽川の豊かな水源を生かした水道水は全国的にもおいしいと評価されており、生活における便利さ、快適さにおいて市民の満足度は高く、住みやすいまちという評価を得ています。

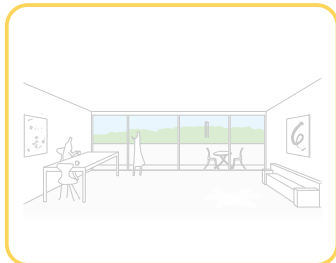
めざすべき都市の姿は、“人・まち・自然がつ

～ 交流でつながる創造力でつづ

3つのくらしの実現

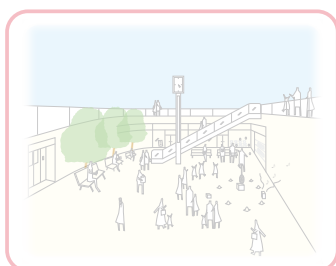
下記の3つのくらしの実現をめざします。

3つのくらしをバランスよく実現することが大切なね。



一人ひとりが豊かな暮らしを実感できる 「やすらぎのあるくらし」

少子高齢化の進行や生産年齢人口の減少にともない、生活に対する不安が広がっています。また、大規模災害発生への懸念など、安心・安全に対する危機感が増大しています。このような状況の中、一人ひとりが豊かな暮らしを実感できる「やすらぎのあるくらし」の実現をめざします。



名古屋大都市圏の中枢都市に ふさわしいまちの鼓動や躍動を実感できる 「ときめきのあるくらし」

将来的な人口減少にともなう都市活力の低下が懸念される中、グローバル化による国際交流の活発化にあわせて、交流人口の増加が求められています。このような状況の中、名古屋大都市圏の中枢都市にふさわしいまちの鼓動や躍動を実感できる「ときめきのあるくらし」の実現をめざします。

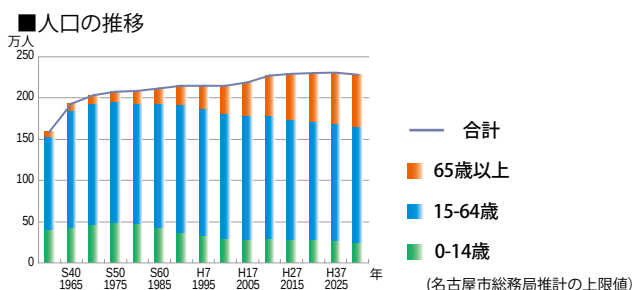


持続可能で水や緑、生き物などの自然を身近に感じられる 「うるおいのあるくらし」

地球温暖化の進行や化石燃料枯渇への懸念など、地球環境をとりまく様々な問題が顕在化しています。都市においては、快適な都市生活を継続しつつも都市活動がもたらす環境負荷の抑制が求められています。このような状況の中、持続可能で水や緑、生き物などの自然を身近に感じられる「うるおいのあるくらし」の実現をめざします。

背景となる時代の潮流

1 少子高齢化の加速と人口減少の進行



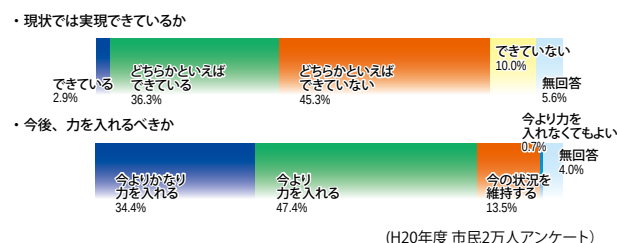
常住人口は、平成37年（2025年）頃にピークを迎え、その後は、減少基調に入ると想定されています。

また、平成37年の高齢化率（65歳以上の割合）は26%程度（平成22年より5ポイント増加）となる見込みです。

このように、少子高齢化が進行し人口減少社会が到来する中、これらに対応したまちづくりが求められています。

2 安心・安全に対する危機感の増大

■災害に対する備えが整っているまち



災害に対する備えが整っているまちかどうかについて、現状では半数以上の人が実現できていないと考え、今後、その実現に向けて、大多数の人が力を入れるべきと考えています。

東日本大震災を受け、こうした災害への備えに対する危機感が増々強くなるものと思われ、安心・安全なまちづくりが求められています。



●まちづくりの方針

「めざすべき都市の姿」の実現に向けた「まちづくりの方針」は、下記の3点です。

暮らしやすさを実感できる

**安心・安全・便利な
生活環境づくり**

- 住宅・住環境に対する市民の多様なニーズや志向を踏まえ、適切な住宅が選択できる環境づくりをすすめるとともに、便利に移動できる交通サービスの実現などにより、鉄道駅などを中心に過度に自動車に依存することなく歩いて暮らせる利便性の高い生活圏を形成し、居住を促進します。
- 地震・火災・大雨などの災害に強いまちづくりにより防災性の向上をはかるとともに、良好なコミュニティを形成し、環境にやさしく安心して安全に住み続けることができる住宅・住環境の形成を推進します。

名古屋大都市圏を牽引する

**交流・創造的活動
の場づくり**

- リニア中央新幹線の整備を見据え、名古屋大都市圏の中核都市として、また国内外との広域交流都市として、都心機能や港湾・空港機能の強化をはかるとともに、地域間連携や交流機能を高める交通基盤の整備をすすめ、国際的・広域的な交流を促進します。
- 道路空間の活用、地域特性を生かした景観づくり、歴史的資源を生かしたまちづくりなどをすすめる中で、交流や創造的活動の舞台にふさわしい個性的な魅力空間を創出します。

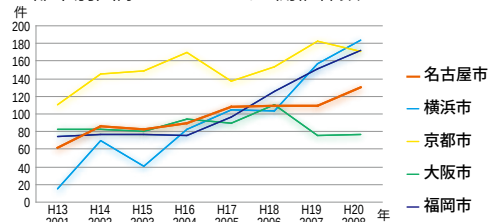
持続可能な社会を支える

**低炭素・自然共生
都市づくり**

- 歩いて暮らせる生活圏の創生に向けた取り組みにあわせ、環境にやさしい交通体系の形成をはかるとともに、エネルギーの安定供給や効率的な利用、緑地の保全・再生と緑化の推進などにより、低炭素で快適な都市を実現します。
- 水辺や緑地などの身近な自然の保全・再生、水循環の回復など、人や生き物にとって快適な環境づくりに取り組み、自然と共生する豊かな都市を次世代へ継承します。

3 グローバル化の浸透

■都市別国際コンベンション開催件数



(H23.2 NAGOYAライフデータでみる名古屋のくらしー)

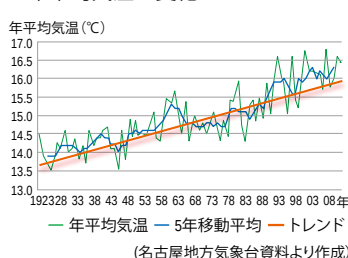
グローバル化を背景に、「国境を超えた都市間競争の時代」になってきています。

また、航空路線網等の充実による世界各地への移動時間の短縮や経済のグローバル化により、国際交流人口が増加しています。

都市間競争が激化する中、国内外の多様な交流を都市の活力の創出につなげられるまちづくりが求められています。

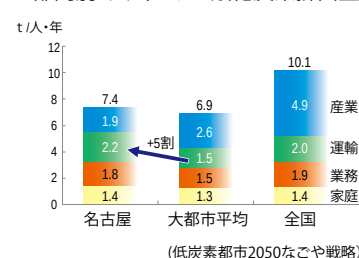
4 地球環境問題の深刻化

■年平均気温の変化



(名古屋地方気象台資料より作成)

■部門別1人当たり二酸化炭素排出量



(低炭素都市2050などや戦略)

年平均気温はここ100年間で2.8°C上昇しており、全国平均気温の上昇(1.1°C)を上回っています。

また、運輸部門のCO₂排出量は全国平均より1割、大都市平均より5割多くなっています。

地球環境問題が深刻化する中、エネルギー消費やCO₂排出の削減など、環境負荷の低減に資するまちづくりが求められています。